



大学発新産業創出基金事業  
スタートアップ・エコシステム共創プログラム

# HSFC(エイチフォース) GAPファンド (ステップ<sup>1</sup>)

## 公募要領

エントリーメタリック : 2024年5月31日(金)正午  
募集メタリック : 2024年7月12日(金)正午

2024年4月

北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク  
Hokkaido Startup Future Creation Development by Mutual Support Networks  
(HSFC エイチフォース)

# 1 HSFC GAP ファンドの趣旨・目的

北海道大学を主幹機関校として、道内の大学及び高専を共同機関校とするプラットフォーム「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC：エイチフォース）」（以下、「HSFC」という）が国立研究開発法人科学技術振興機構（以下、「JST」という。）の「大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム／拠点都市プラットフォーム共創支援」（以下、「JST 基金事業」という）に採択されました。

【JST からのプレスリリース】 <https://www.jst.go.jp/pr/info/info1663/index.html>

「HSFC GAP ファンド」（以下、「本公募」という。）は、本プラットフォームに参画する大学・高専の研究者・学生（修士課程・博士課程）による技術シーズをベースとしたスタートアップの創出のための検証活動を支援する GAP ファンド（ステップ1「プレ支援」、ステップ2「スタートアップ組成」）です。（今回の公募はステップ1のみ。ステップ2は、2024年秋頃に公募を予定しています）

GAP ファンドとは、スタートアップ創出に向けて、想定ユーザーへのヒアリング、共同創業者の探索、ビジネスアイデアの構築・検証、プロトタイプ製作およびユーザーとのプロトタイプ実証を進め起業を目指して頂くための資金です。

本公募に採択された研究代表者は、支援終了後の研究シーズを基にした起業に向けて、実施期間中、伴走型支援を受けながら、起業にあたって必要となる資本戦略、事業戦略、知財戦略等を学びつつ、Demo Day 等においてVC（ベンチャーキャピタル）や事業会社とのマッチングの機会を得ることができます。

## （1） JST 基金事業について

本基金事業（大学発新産業創出基金事業）は、政府のスタートアップ育成 5 か年計画等を踏まえ、我が国における大学等発スタートアップ創出力の強化に向けて、研究開発成果の事業化や海外での事業展開の可能性検証を視野に入れた研究開発を推進するとともに、地域の中核となる大学等を中心とした产学研官共創による大学等発スタートアップ創出支援等の実施を可能とする環境の形成を推進するものです。

## （2） JST 基金事業の目標

本基金事業は、スタートアップ育成 5 か年計画等を踏まえ、スタートアップの成長促進に関する施策を担う関係機関と連携しつつ、本公募プログラムを含む各種プログラムの推進を通じて、以下の目標の達成を目指すものです。

- ①社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する、大学等のアカデミアから生まれるスタートアップ（以下、「大学等発 SU」）の創出を、質・量ともに格段に充実させること。
- ②大学等発 SU の継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成すること。

## （3） JST 基金事業の目指す姿

本基金事業に携わる者の間において 前述の目標が達成された姿として、以下に掲げる状態を創出することを目指すものです。

- ①大学等発 SU が創出する革新的な新製品又は新サービスにより、社会課題が解決されて新たな価値が生まれ、我が国を含め国際社会全体の暮らしが豊かになる。
- ②大学等発 SU の事業成長により、我が国の雇用創出とともに経済成長が実現する。
- ③社会・経済に価値をもたらす大学等発 SU の成功事例を積み重ねることで、より多くの人材が大学等発 SU の創出・育成を志す。

## （4） 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC）の概要

HSFC は、北海道内に広域に点在する大学・高専など複数の関係機関からなる大学等発研究開発型スタートアップ創出のためのプラットフォームです。北海道にある多様な研究シーズをもとに、地域に新しい産業を創出することを目指し、ネットワークを強化・推進しています（下図のように、主幹機関、共同機関、協力機関から成ります）。

HSFC では、本公募「HSFC GAP ファンド」による大学発スタートアップ創出支援のほか、「起業活動支援プログラムの運営」、「起業家育成プログラムを運営する指導・支援人材の育成」、「起業環境の整備」、「プラットフォーム内外のエコシステムの形成」に取組んでいます。



#### (5) 本公募要領での主な用語

<b>シーズ</b>	事業化を目指す上で核となる研究成果等を指す。本公募の申請に当たっては、当該研究成果に関する特許を取得していることが望ましいが、特許出願中や特許を出願予定であるものや必ずしも特許出願を行わない研究成果（ソフトウェア等）に基づく応募も可能。例えば、大学等の研究成果として創出されたAI技術や、人文・社会科学の研究成果等を活用し、社会課題の解決を目指す案件等も対象となる。
<b>研究代表者</b>	GAP ファンドにおける研究開発課題において研究開発に責任を有する研究者等。申請時点において、申請の核となるシーズの発明者である、もしくは発明に関わった者。
<b>研究開発課題</b>	技術分野や企業を目指す事業分野によって大きく異なるが、一般的には試作品開発、仮説検証のためのデータ取得（実験結果、計算結果）、ビジネスモデルの構築、知財の確保、経営チームの構築等が中心となる。課題は共同創業者との協議や検証の結果によって、よりスタートアップとして適切なものに変更する必要がある。
<b>事業化推進機関</b>	研究成果の事業化に向けた事業開発に責任を有する機関。事業化に向けて必要なリソースを集め、そのリソースの活用によって事業化マイルストンの達成に必要な取組を推進することが求められる。

### 3 応募の要件及び研究開発課題の内容

#### 【HSFC GAP ファンドの概要】

フェーズ	ステップ1（プレ支援）	ステップ2（スタートアップ組成）
定義・ねらい	応用研究 基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げる	概念実証・スタートアップ組成 前半ではビジネスとしての可能性の評価と実証（PoC）を行い、起業にあたってクリアすべき課題の解決を目指します（概念実証）。後半ではこれら取組に加え、大学等発 SU の組成と VC が投資判断できるレベルに向けて、PcC を継続して実施します（スタートアップ組成）
支援額	上限 500 万円	上限 6,000 万円
支援期間	採択決定（JST との契約）から概ね 1 年間	採択決定（JST との契約）から 3 年を上限
公募時期	年 1 回	年 1 回／10 月頃公募予定
採択予定件数	24 件程度	4 件程度
アグリ・フード枠	うち 7 件程度	なし

#### ※太枠の部分（ステップ1）が今回の公募です。

※「アグリ・フード枠」：HSFC の重点領域として設定している分野であり、特別枠を設定して一定程度の採択数を確保するもの。「アグリ・フード枠」のテーマかどうかは、「研究分野」ではなく、「用途先・市場等」をもとに判断してください。HSFC ではアグリ・フード枠の対象を以下のように想定しています。

- ①農林水産業および食品産業の発展および課題解決に貢献するプロジェクトとする。農業には酪農および畜産を含み、食品産業は主に食品の加工のみならず、流通・販売（輸出）に関するものなども含む。
- ②コアとなる研究シーズは、農学・水産学・畜産学のみならず、農林水産業・食品産業に貢献する機械工学（ロボット等）、情報工学（AI・IoT 等）、化学（肥料等）等も対象とする。

#### 【 対象となる研究開発課題 】

対象内容は事業化に向けて研究機関の研究成果と起業・事業化とのギャップを埋めるために行う、起業・事業化可能性の検証、ビジネスモデルのブラッシュアップ、試作品開発及び仮説検証のためのデータ（実験結果、計算結果等）の取得、市場調査、知財の確保等に限ります。また、純粹な基礎研究用途や、既存及び立ち上げたスタートアップ企業のために使用することはできません。

#### 【 研究代表者 】

次の機関に所属する研究者及び学生（修士・博士課程）

主幹機関：北海道大学
共同機関：小樽商科大学、札幌医科大学、室蘭工業大学、北見工業大学、公立はこだて未来大学、北海道科学大学、北海道情報大学、苫小牧工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、函館工業高等専門学校
協力機関：旭川医科大学、帯広畜産大学、北海道教育大学、札幌市立大学、公立千歳科学技術大学、藤女子大学、酪農学園大学、函館大学、釧路工業高等専門学校

※採択された場合、所属大学等と JST が委託研究契約を結ぶことになります。所属大学等が「共同機関」になっていないと JST と契約できません。所属大学等が「協力機関」の場合は、「共同機関」になる必要がありますので、本公募要領 7 ページ「共同機関について」の問合せ先に申請前に必ずご相談ください。

## 【研究代表者の要件】

研究開発課題の研究代表者は、次の要件をすべて満たすこと。

- ①応募時点、及び研究実施機関において、所属する大学等または学生（修士課程、博士課程）であり、かつ研究開発課題の核となるシーズの発明者である、もしくは発明に関わった者であること。応募にあたっては当該研究成果に関する特許を所得していることが望ましい。しかし、特許出願中や特許を出願予定であるものや必ずしも特許出願を行わない研究成果（ソフトウェア等）に基づく応募を排除しない。例えば、大学等の研究成果として創出された AI 技術や、人文・社会科学の研究成果等を活用し、社会課題の解決を目指す案件等を対象にすることも可能。ただし、学部生は対象とはしない。
- ②シーズを利用したスタートアップ企業の設立、事業化等により、大学等の研究成果の社会還元を目指していること。
- ③シーズについて、本公募を通じて創出されるスタートアップ企業の実施に関して、そのシーズの発明者、シーズが帰属する機関等（特許出願人等）の同意が得られていること。
- ④プラットフォーム（HSFC）が目指すスタートアップ・エコシステムの形成について、その趣旨を理解の上、貢献する意志を有すること（趣旨などについては本公募要領 P1～2 を参照）。

また、学生（修士課程、博士課程）が研究代表者となる場合は、以下⑤～⑦が条件となります。

- ⑤学生の修了等に関わらず、事業化に向けて継続的な体制構築及び事業化推進を担保できること。（研究代表者の交代は原則として不可です）
- ⑥学生及び指導教員が双方署名の上、「学生と所属機関の間で、研究成果として生じる知的財産権の取扱いについて取り決め、合意したこと」を確認できる確認書（様式 3）を提出すること。
- ⑦研究開発費は最長 4 年間（ステップ 1 とステップ 2 の期間合計）で金額上限 500 万円を基本とするこ（ただしプラットフォーム(HSFC)において必要性が認められる場合は 1,000 万円までの支出は可能）

## 【研究代表者の利益相反について】

プロジェクトに参画する者と関係者との利益相反に関して適切に整理するようご留意ください。

## 【過去に採択された研究開発課題について】

過去の HSFC 関連の GAP ファンド（2021 年度及び 2022 年度）で採択した研究開発課題については、再度支援を行うことで事業化に近づくことが見込まれることを前提に、申請可能です。ただし、**2022 年度の GAP ファンド「ビジネスチャレンジ」枠に採択された研究開発課題については、ステップ 1 への応募はできません。**

## 【研究代表者の重複応募の制限】

同一の研究代表者は以下のうち 2 つ以上のファンドを同時に実施することはできません。また、最終年度を除き、1 つのファンドを実施しながらもう 1 つのファンドに申請することもできません。申請段階での制限はありませんが、複数のファンドに申請した場合はいずれかのファンドの採択が決定した段階で、採択が決定したファンドを実施して申請中のファンドを辞退するか、申請中のファンドの審査結果を待つために採択が決定したファンドを辞退するかを選択していただきます。また、同一の研究代表者が、本公募に複数課題を申請することはできません。

(重複応募の対象となるファンド)

○起業を目指す取組を支援する事業

【大学発新産業創出基金事業】

- ・ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム
- ・スタートアップ・エコシステム共創プログラム（本公募）内の研究開発課題
- ・起業実証支援
- ・可能性検証（【起業挑戦】の提案）

【研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）】

- ・起業実証支援
- ・ビジネスモデル検証支援
- ・SBIR フェーズ1 支援
- ・大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援内の研究開発課題
- ・大学・エコシステム推進型 大学推進型内の研究開発課題

○技術移転を目指す取組を支援する事業

【大学発新産業創出基金事業】

- ・可能性検証（【企業等連携】の提案）

【研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）】

- ・SBIR フェーズ1 支援

※詳細は、以下 JST 基金事業公募要領の P39～42 を参照のこと

「大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 拠点都市プラットフォーム共創支援／地域プラットフォーム共創支援」公募要領

[https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/common/files/2023youkou\\_su-ecosys.pdf](https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/common/files/2023youkou_su-ecosys.pdf)

【個人情報等の取扱い】

応募に関連して提供された個人情報については、個人情報の保護に関する法律および関連法令を遵守とともに、本公募の目的の達成に必要とされる範囲内でのみ利用します。申請書は、本公募の評価・選考に関する資料として使用します。申請内容に関する秘密は厳守します。JSTとは業務を行う上で必要となる情報が共有されます。

【ダイバーシティ】

本応募では「ダイバーシティ（多様性）」を推進しております。年齢、性別、国籍を問わず、多様な専門性、価値観等を有する人材が参画し、アイデアを出し合い、共創、協働してこそ新しい世界を開くことができます。現在、女性の活躍が「日本最大の潜在力」として成長戦略の中核に位置付けられています。研究開発においても、女性の参画拡大が重要であり、科学技術イノベーションを支える多様な人材として、本公募では、女性研究者の積極的な応募を期待しています。

## 【補助対象経費】

概要：（直接経費）直接研究に必要な経費で次に掲げるもの

①物品費	研究用設備・備品・試作品、ソフトウェア（既製品）、書籍購入費、研究用試薬・材料・消耗品等の購入費用 ※既存の状況を勘案し、必要性・妥当性を十分に検討したうえで、必要不可欠なもののみを調達してください。
②旅費	研究代表者および申込書記載の研究参加者等に係る旅費、外部専門家等招へい者に係る旅費 ※各所属機関の旅費規程に準拠します。
③人件費・謝金	本研究開発課題のために雇用する研究者等（研究代表者を除く）の人件費、人材派遣、講演依頼謝金等の経費 ※雇用契約にかかる諸条件は各所属機関の規程に準拠します。 ※研究代表者、および大学等において運営費交付金や私学助成金等により、国から人件費を措置されている者の人件費は対象外です。 ※他機関所属の者であっても同一チームの研究参加者として参画している場合は謝金対象とすることはできません。
④その他	上記の他、研究開発を実施するための経費。運搬費、リース費、外注費、ソフトウェアライセンス使用料等。 ※スタートアップ企業の創出に向けた事業戦略を構築するための特許調査の費用も補助対象となります。

## 【達成目標とマイルストン設定について】

本公募の申請書（様式1）において、プログラムにおける課題終了時の達成目標を定め、そのための事業化及び研究開発マイルストンを設定いただきます。「達成目標」（ステップ1、ステップ2）及び「マイルストン」（ステップ2のみ）の設定にあたっては、別紙の「【参考】マイルストン目標設定例（各ステップの終了時で達成されているべき達成目標例）」を参照してください。「達成目標」及び「マイルストン」の妥当性は評価の重要な項目の一つとなります。（ステップ1については、課題終了時の達成目標がマイルストンとなります）

## 4 応募の手続き及び日程

### 【申請前】

- (1) 申請書の提出前にエントリーシートを提出していただきます。（5月31日（金）正午〆切）
- (2) e-learning プログラム  
申請前にオンライン教材のe-learningプログラムを視聴していただきます。スタートアップや事業化についての基礎的な短い内容となっておりますので、申請書作成に役立ててください。
- (3) 集合研修、個別相談会  
エントリーシートを提出いただいた申請予定者に向けて、スタートアップの専門家（事業化推進機関）による申請書作成のポイントなどに関する集合研修を行います。また、個別に書き方などの相談に応じる個別相談会も実施します。スタートアップや事業化の考え方やマイルストン設定などアカデミアとは異なる感覚が求められる申請書となっておりますので、受講を強くお勧めいたします。

### 【応募の手続き】

#### (1) 提出書類

- 様式0 エントリーシート（本事業に申請を予定している方は必ず提出していただきます。）  
様式1 申請書（研究開発課題の概要）  
様式2 課題予算案  
様式3 合意確認書（学生が研究代表者の場合のみ）

#### (2) 受付期間

- ①エントリーシート : 2024年5月31日（金）正午  
②申請書等(様式1~3) : 2024年7月12日（金）正午までに登録完了

#### (3) 提出方法

- ①エントリーシート : 様式0を下記E-mailに件名「GAP ファンドエントリー」として提出してください。  
E-mail : start-gap@noastec.jp  
②申請書等 : 様式1~3をノーステック財団の補助金申請システムにて提出してください。  
※詳細はエントリーシート提出者にご案内します。6月3日までにノーステック財団からの連絡がなかった場合は下記の問い合わせ先まで連絡願います

#### (4) 問い合わせ先 :

##### 【HSFC GAP ファンドについて】

ノーステック財団（公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター）  
産学連携支援部 GAP ファンド担当  
E-mail: start-gap@noastec.jp Tel:011-708-6536

##### 【HSFC 全般について 共同機関について】

北海道大学 産学・地域協働推進機構 北大スタートアップ事務局  
E-mail: hsfc-jimu@mcip.hokudai.ac.jp Tel:011-706-9556

## 5 審査及び採択後の手続き等

### 【評価の観点】

応募後の選定に当たっては、ノーステック財団が組織する審査委員会において、以下の評価の観点について、外部審査委員による一次審査（書面審査）および二次審査（ヒアリング審査）を実施し、北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク推進会議において、採択課題を決定します。

なお、一次審査（書面審査）の結果により、二次審査（ヒアリング審査）を実施しない場合があります。

※ステップ2については別途提示します。

### 【ステップ1】

審査項目	審査の観点
基礎となる研究成果の蓄積	<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎となる研究成果の蓄積が十分であるか</li><li>・科研費等の外部資金の獲得実績が十分であるか</li></ul>
事業化の可能性	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業化に向けた用途仮説が立てられているか</li><li>・用途仮説に基づく性能検証を行うための検証項目は適切か</li><li>・ステップ2(スタートアップ組成枠)以降のマイルストンも想定できているか</li></ul>
シーズ・知財状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・研究開発に独創性・新規性が認められるか</li><li>・事業終了時に原則基本特許の取得が見込めるか</li></ul>
課題の推進体制・規模の妥当性	<ul style="list-style-type: none"><li>・研究開発の体制やスケジュールは適切であるか</li><li>・研究開発費の規模・使途は適切であるか</li><li>・事業化推進機関・専門家メンターから助言が得られる体制が構築されているか</li></ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・国際市場において大きな成長が期待できるか。</li><li>・社会・経済に対して大きなインパクトをもたらす可能性があるか</li></ul>

### 【アグリ・フード枠のみ】

審査項目	審査の観点
アグリ・フード分野への貢献	<ul style="list-style-type: none"><li>・アグリ・フード業界に対して大きなインパクトをもたらす可能性があるか</li></ul>

### 【二次審査（ヒアリング審査）】

一次審査通過者は、基本的には、二次審査（ヒアリング審査）に参加していただきます。研究代表者が審査委員に対して申請内容をパワーポイントのプレゼン資料により説明していただき、審査委員は本プレゼンと書面審査評価を参考に審査いたします。二次審査の詳細は一次審査通過者に別途お知らせいたします。

### 【最終審査（参画機関による意思決定）】

採択する研究開発課題については、参画機関によって構成する「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)推進会議」において、一次審査・二次審査の結果を踏まえて、最終選考を行います。

## 【採択の決定・通知】

2024年9月頃に採択する研究開発課題を決定し、所属機関を通じて、研究代表者に対して通知する予定です。

## 【研究開発費】

研究開発費は、研究開発課題の採択後、研究計画書を提出し、採択者の所属機関とJSTとの委託契約締結していただきます。研究開発費の執行にあたってはJSTが定める以下事務処理説明書をご留意ください。  
以下参照 ※令和6年度版が公開された場合はそちらをご参照ください。

令和5年度委託研究事務処理説明書【共通版】

<https://www.jst.go.jp/contract/download/2023/2023a301manua.pdf>

令和5年度委託研究事務処理説明書【補完版】

[https://www.jst.go.jp/contract/download/2023/2023\\_daigakuhatsu\\_hokan.pdf](https://www.jst.go.jp/contract/download/2023/2023_daigakuhatsu_hokan.pdf)

## 【採択後の取り組み】

- ①採択後、実施期間内にHSFCが指定する「起業活動支援プログラム」にご参加いただきます。
- ②事業化に向けたビジネスモデルや研究開発成果を発表する場である「研究成果発表会(仮称)」にて発表していただくことを予定しています。
- ③採択された研究開発課題については、ホームページなどでテーマ名、研究代表者等が公表されます。
- ④採択された研究開発課題は、申請書に記載した達成目標やマイルストンの進捗状況等について審査委員による評価を受けていただきます。
- ⑤起業された際は、HSFCが目指すエコシステム形成について貢献していただくようお願いいたします。

## 【日程】(予定)

**エントリーシート提出：2024年5月31日（金）正午まで**

研究代表者は、エントリーシートをノーステック財団にE-mailで提出します。



**e-learning プログラムの受講**

研究代表者は、申請前にオンラインのe-learningプログラムを受講します。

**集合研修、個別相談会の受講**

申請予定者は、HSFCが実施する集合研修、個別相談会を可能な限り受講していただきます。



**申請書の提出：2024年6月3日（月）～2024年7月12日（金）正午**

研究代表者は、申請書をノーステック財団のオンライン補助金システムにより提出します。



**一次審査（書面審査）：2024年7月中旬～2024年8月上旬**

審査委員が申請書に基づき審査します。



**一次審査（書面審査）結果通知：2024年8月上旬**

一次審査（書面審査）の結果について、研究代表者に所属機関を通じて通知します。（二次審査の実施について併せてご案内します。）



**二次審査（ヒアリング審査）：2024年8月下旬**

審査委員が研究代表者のプレゼンテーションに基づき審査します。



**最終審査（北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク推進会議）：2024年9月上旬**

同会議による審議を経て、採択する研究開発課題を決定します。



**採択決定・通知：2024年9月上旬（予定）**

採択の結果は、研究代表者に所属機関を通じて通知します。



**「基礎プログラム」への参加：2024年10月～2025年9月**

採択された研究代表者等には、起業ノウハウ等の学習、ビジネスモデルのブラッシュアップ、顧客ヒアリングの支援等を実施する事業化基礎プログラムを受講していただきます。



**「研究成果発表会（仮称）」への参加：2025年2月（未定）**

採択された研究開発課題のうち希望者には、事業化に向けた活動の成果について本イベントで投資家等の前で発表し、事業化に向けた動きを加速していただきます。



**「マイルストン評価会（仮称）」への参加：2025年8月（予定）**

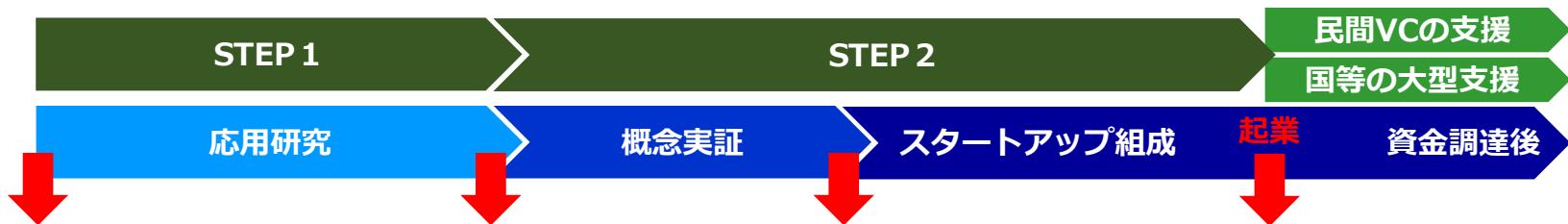
採択された研究開発課題は、申請書に記載した達成目標やマイルストンの進捗状況等について審査委員による評価を受けていただきます。



## 【参考】マイルストン目標設定例（各ステップの終了時点で達成されているべき達成目標例）

各ステップにおいて実施すべき具体的な事業開発や研究開発の内容は、技術分野や起業を目指す事業分野によって大きく異なりますが、一般的には試作品開発、仮説検証のためのデータ取得（実験結果、計算結果）、ビジネスモデルの構築、知財の確保、経営チームの構築等が中心となります。

以下に各ステップの中間地点や終了時点で達成しているべきマイルストンおよび達成目標例を例示します。



### ●応募時点の到達目標例

- 【事業開発】
  - 用途仮説が立てられている
  - ステップ2以降のマイルストンも想定できている
- 【技術開発】
  - 用途仮説に基づく性能検証を行うための検証項目が特定されている
- 【チームアップ】
  - 事業化推進機関から助言が得られている

### ●達成目標例（ビジネスとしての可能性が評価できる）

- 【事業開発】
  - 勝負するマーケット規模の予測が立てられている
  - 将来マーケットにおける顧客イメージと商品／サービスの競争優位性がロジカルにつながっている
- 【技術開発】
  - 用途仮説に基づき必要な性能の検証が行われている
  - 原則、基本特許等がある
  - 事業の中核となる特許群の出願計画がある（＝競争優位性の確保）
- 【チームアップ】
  - 事業開発を推進する責任者が存在する

### ●概念実証段階で解決しておくべき課題例

- 【事業開発】
  - 特許のクリアランス調査が終わっている
  - 競合調査（コスト比較含む）実施（リサーチ会社の活用含む）
  - 顧客候補へのインタビューが行われている
- 【技術開発】
  - 実験室環境でのデータ取得が終了している

### ●達成目標例（VCが投資判断できる）

- 【事業開発】
  - 事業計画が策定されている
  - 自社の強みがファクトベースで特定されている
  - 営業戦略が立てられている
  - 複数の顧客候補にアクセス可能なネットワーク等を有している（チーム内もしくはチーム外の協力者）
  - 市場と顧客が具体的に特定されている
  - 上流から下流までのバリューチェーンにおいてそれぞれ協働が検討できている
  - 顧客と商談が進んでいる
- 【技術開発】
  - 技術実証パートナーがいる強力な基本特許を有している
  - スケールアップ（ラボスケールの次のステップ）への準備が整っている
- 【チームアップ】
  - 事業開発及び技術開発の責任者が創業者として存在する
  - Key opinion Leaderを巻き込んでいる
  - 資本政策案が作られている